

市井展の全貌

東京における百貨店・画商の日本画展覧(戦後編)

東京美術倶楽部 編

戦後復興から高度経済成長期の昭和45年まで、戦前から続くこの時代に名実ともに輝いていた日本画展覧を細大漏らさず収録！
戦後の文化的価値観の変化に、画家と画商が協力して乗り越え、数多の名作が誕生した詳細な記録



『市井展の全貌』戦後編(最新刊)と戦前編(既刊)

八木書店

Yagi Bookstore Ltd. Publishing Dept.

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8
●TEL:03-3291-2961[営業] -2969[編集] -6300[FAX]
●E-mail:pub@books-yagi.co.jp ●Web:http://www.books-yagi.co.jp/pub

市井展の全貌

—東京における百貨店・画商の日本画展覧(戦後編)—

A4判・上製本・貼函入・730頁・定価(本体25,000円+税)

ISBN978-4-8406-7016-6 C3071 ¥25000E

7月末刊行予定

- 百貨店美術部・画商が開催した昭和21年から45年までの日本画新作発表の展覧約1300余りを収録。
- 本書収録の作品点数は約1万1000点。精確な本文により出品作品や同時代評などが判明。
- その中、約四千点を参考図版として掲載。巻末の「作家別掲載図版一覧」により作品の検索が可能。

目次

第1部 百貨店美術部 (11店)

伊勢丹美術部・小田急百貨店美術部・白木屋美術部・西武百貨店美術部・大丸美術部・高島屋美術部・東横百貨店美術部・松坂屋上野店美術部・松坂屋銀座店美術部・松屋美術部・三越美術部

第2部 画商 (24店)

栗津画廊・一哉堂・永善堂画廊・角谷二葉居・孔雀画廊・栗田九品庵・兼素洞・壺中居・相模屋美術店・サカモト画廊・三溪洞・三柳堂画廊・春風洞画廊・関尚美堂・双樹洞画廊・田島美術店・東洋美術館画廊・中村好古堂・フジキ画廊・松島畫舫・丸栄堂・村越画廊・八重洲美術店・彌生画廊

作家別掲載図版一覧

市井展の全貌

—淡交会、珊々会、尚美展から東京会まで(戦前編)—

A4判・上製本・貼函入・538頁・カラー口絵4丁・定価(本体20,000円+税)

ISBN978-4-8406-7015-9 C3071 ¥20000E

第7回アート・ドキュメンテーション推進賞受賞!

竹内栖鳳《班猫》、川合玉堂《峰の夕》などが出品され、作家の自由な作品発表の場であり、生活に彩りを添える販売の場であった市井展！
近代美術作品の発表の実態をくまなく網羅！

好評既刊



申 込 書	東京美術倶楽部編・八木書店刊		2015年7月末刊行予定	取扱店(番線印)	
	市井展の全貌 東京における百貨店・画商の日本画展覧(戦後編)〔 〕冊				
	ISBN978-4-8406-7016-6 C3071 ¥25000E 定価(25,000円+税)				
	お名前(ふりがな)		TEL		
ご住所 〒		FAX		E-MAIL	

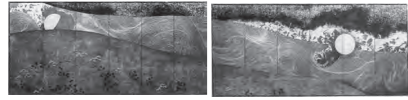
森会第九回展（無署名）
萌春 第168号（昭和43年8月号） p.45 諸展観評



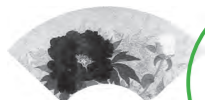
石本正《舞妓》



石本正《雛嵜架》



加山又造《天の川》六曲一雙屏風



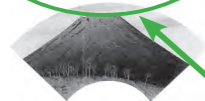
加山又造《牡丹》



平山郁夫《流砂の道》



平山郁夫《このはづく》



横山操《暁富二》

森会第10回展

昭和44年(1969)11月4日-9日 日本橋・高島屋6階画廊 主催：高島屋・村越画廊

出品

石本正《舞妓》《鶏頭(一)》《鶏頭(二)》《木瓜》《雪景》、加山又造《雪》《牡丹(一)》《牡丹(二)》《猫(一)》《猫(二)》《鯉(一)》《鯉(二)》《白鷺》《雁》《鴉》《牡丹》、平山郁夫《白毫寺》《勝間田池の残照》《浄瑠璃寺》《山の辺の道》《水上の池》《浄瑠璃寺》《薬師寺の月夜》《飛鳥川》《春日野》、横山操《富士八景》《新月富士》《甲府富士》《武蔵野富士》《波富士》《新雪富士》《暁富士》《冬富士》《富士川波富士》

作品図版：石本正《舞妓》『萌春』183中絵、石本正《鶏頭(一)》『三彩』253-p.43、石本正《鶏頭(二)》『三彩』253-p.39、石本正《木瓜》『三彩』253-p.39、加山又造《雪》『三彩』253-p.50、『萌春』183中絵、加山又造《牡丹(二)》『美術通信』706-p.3、『三彩』253-p.43、加山又造《猫(一)》『読売新聞』118夕刊、加山又造《猫(二)》『三彩』253-p.36、《鯉(一)》『三彩』253-p.40、加山又造《鯉(二)》『三彩』253-p.40、加山又造《白鷺》『三彩』253-p.41、加山又造《雁》『三彩』253-p.41、平山郁夫《白毫寺》『読売新聞』118夕刊、『三彩』253-p.35(多色図)、『萌春』183中絵、平山郁夫《浄瑠璃寺》『三彩』253-p.42、平山郁夫《山の辺の道》『三彩』253-p.45、平山郁夫《水上の池》『三彩』253-p.53、平山郁夫《浄瑠璃寺》『三彩』253-p.55、平山郁夫《薬師寺の月夜》『美術通信』706-p.3、平山郁夫《飛鳥川》『平山郁夫展〈文化勲章受章記念〉〔カタログ〕(朝日新聞社・日本放送協会・

253-p.38、石本正《木瓜》『三彩』253-p.39、加山又造《雪》『三彩』253-p.50、『萌春』183中絵、加山又造《牡丹(二)》『美術通信』706-p.3、『三彩』253-p.43、加山又造《猫(一)》『読売新聞』118夕刊、加山又造《猫(二)》『三彩』253-p.36、《鯉(一)》『三彩』253-p.40、加山又造《鯉(二)》『三彩』253-p.40、加山又造《白鷺》『三彩』253-p.41、加山又造《雁》『三彩』253-p.41、平山郁夫《白毫寺》『読売新聞』118夕刊、『三彩』253-p.35(多色図)、『萌春』183中絵、平山郁夫《浄瑠璃寺》『三彩』253-p.42、平山郁夫《山の辺の道》『三彩』253-p.45、平山郁夫《水上の池》『三彩』253-p.53、平山郁夫《浄瑠璃寺》『三彩』253-p.55、平山郁夫《薬師寺の月夜》『美術通信』706-p.3、平山郁夫《飛鳥川》『平山郁夫展〈文化勲章受章記念〉〔カタログ〕(朝日新聞社・日本放送協会・

16 作家別掲載図版一覧

叢原	415	シエナの丘(イタリヤ)	桜島	418	鮎	196.1
双鳥	484	660	ざくろ	565	鸚哥	
玉あざみ	413	湿原	488	山湖	458,568	インコ
月	105	受胎霊夢	421	山湖の秋	568	梅
凍鶴	298	浄瑠璃寺	663	山湖の朝	316	鴛鴦
ハイビスカス	295	水上の池	663	石楠花	315	おもと
白月	695	スワットの月	423	樹間	325	柿
白鳥	289	大正池	137	焼岳	567	柿若葉
蜂鳥	296	東大寺の朝	325	初冬	415	熊笹と小魚
鳩	413	東大寺の森	265	谷川岳	415	鯉
花	328	トルコの女	661	潮風	136	紅梅遊鳥
浜風	627	内海爽日	191	峠の朝	634	紅白梅
薔薇	417	白毫寺	663	西穂高	416	魚
風景	188	白毫寺村遠望	326	晴れた朝	695	秋晴
窓辺	328	仏頭	665	吹割の滝	416	春汀
汀	457	法華寺	467	富士	326	松竹梅
峰渡る鳥	554	無為	424	穂高	414	菖蒲
夕暮れる高原	261	薬師寺の月夜	663	岬	476	菖蒲の芽
夕映	573	山の辺の道	663	妙義	137,464	白木蓮
蘭花	179,261,454	流砂の道	662	紫すもも	314	水蜜桃
流映	416	広田多津	木蓮	321	清秋	
緑蔭	572	大原女	164	もくれん	471	雪庭
鶯	415,454	菖蒲	635	紅葉	415	雪后
作品名未詳	631	静物	628	山かげ	188,641	竹
平山郁夫		舞妓	641	轡気	467	筍
赤い石の村	660	作品名未詳	631	流溪	134	立葵
飛鳥川	664	福王寺法林	作品名未詳	630	淡紅梅	
アナトリヤ高原	422,661	青い蜜柑	565	福田翠光	躑躅鶯	
アナトリヤの月	422	あけび	670	雉子	484	茄子
雨のインダス河	423	朝やけ	555	寂	639	錦鯉
嵐山黎明	116	有明	554,568	秋晴	628	葱と雀
インドの少女	664	磯	99,318,525	深秋	641	柏鶯
永平寺	471	磯風	265	爽朝	634	白桃
延暦寺	158	岳	568	洋蘭	485	白桃1
(オアシス)泉	661	月山	463	作品名未詳	631	白桃2
黄気	558	かりん	320	福田豊四郎	白梅小禽	
春日野	664	北国の山	567	山湖雨季	639	初雪
勝間田池の残照	663	北の海	626	山湖雨霽	634	花菖蒲
鳥	421	錦秋	264,319	陽のあたる沼	164	蛤
献花供養	637	錦秋の谷間	488	作品名未詳	631	春の水
高原の鳥	641,661	溪声の秋	490	福田平八郎	日の出	
古都ラホール	423	鶏頭	414	青柿	366	鱈の鱧と柿
このはづく	662	溪流	417,418,639	秋	394	冬
三光のモスク	424	原始林の湖	416	曙	354,393	蜜柑
残照西の京	490	湖水の秋	567	朝顔	367	汀

見本組

本文と作家別掲載図版一覧
(70%に縮小)

本書の特色

- 昭和21年11月高島屋青丘会第9回日本画展から昭和45年12月22日-26日 孔雀会第10回展(孔雀画廊)まで1300余りの市井展を取録。
- 販売目録という理由から現存するものは極めて少ない主催者発行の展覧会図録を博捜し、また現在営業している画商所蔵の資料を集める他、当時の雑誌掲載記事から、各展観の概要を精確に記載。
- 各展覧会の記載は、展観の主催者(会名)・期間・場所・作者及び出品作品名に加えて図録以外の雑誌(『萌春』『美術通信』など)に掲載された作品の記録を記した。
- 本書収録の延べ作品点数は、約11,000点。その中から約4,000点の作品を参考図版として掲出し、巻末に「作家別掲載図版一覧」を付した。
- 当時活躍していた作家の展覧会出品動向の解明、および従来知られていない作品との遭遇が期待できる労作。

市井展とは？ (本書より抄録)

- ・市井展とは、百貨店の美術部や画商(画廊)が主催する、複数の美術作家による新作発表展。
- ・百貨店美術部の創設から間もなくして、メンバーを特定しない新作発表展(A)がスタート(明治末期から大正初期、1910年代)。
- ・百貨店美術部の創設に前後して、古画骨董を扱う美術商の中から新作の絵画(新画)を扱う美術商(新画商)が台頭。
- ・三越美術部の「淡交会」を嚆矢として(関東大震災以後、1920年代)、特定のメンバーによる「○○会」と呼ばれる新作発表展(B)が百貨店美術部と新画商によって開催され注目を浴びるようになり、市井展と言えば、このBを指すようになる。
- ・Aは、新春と夏とに床の間に掛けかえる新作の絵(画幅)の販売が主な目的であったので、晩秋から初冬(秋季展)と春から初夏(春季展)の年2回開かれることが多かった。Bは、年1回定期的に開催された。
- ・いずれも販売を目的としているので、美術展より「展観」が相応しい。
- ・百貨店美術部・画廊の展観の常態化や、日本画展観の相対的減少が顕著になる昭和46年以降から次第に、「市井展」という呼称は使われなくなった。

本書収録の主な作家とその掲載図版点数

()内は収録図版予定点数

麻田鷹司(61)・麻田辨次(41)・石本正(53)・伊東深水(29)・岩橋英遠(49)・上村松篁(69)・浦田正夫(42)・大山忠作(64)・奥村土牛(96)・小倉遊亀(57)・小野竹喬(64)・堅山南風(50)・加藤栄三(94)・加藤東一(71)・金島桂華(36)・鑄木清方(45)・加山又造(62)・川合玉堂(32)・川端龍子(42)・今野忠一(53)・信太金昌(44)・杉山寧(89)・高山辰雄(119)・堂本印象(49)・徳岡神泉(55)・中川一政(39)・中村岳陵(32)・中村正義(30)・西山英雄(80)・野島青茲(41)・橋本明治(79)・濱田観(37)・濱田台児(37)・東山魁夷(82)・稗田一穂(49)・平山郁夫(41)・福王寺法林(53)・福田平八郎(90)・前田青邨(52)・松林桂月(29)・森白甫(27)・森田沙伊(68)・安田靉彦(41)・山口華楊(43)・山口蓬春(79)・山田申吾(82)・山本丘人(100)・横山大観(29)・横山操(80)・吉岡堅二(53)

作家別掲載図版一覧から
図版が検索出来ます